

触媒学会理事会からの報告



平成29年3月21日（火） 15：50～16：15

1. 会長方針
2. 平成29年度会長信任投票結果
3. 平成29年度理事会体制－会長特命担当理事（60周年記念式典担当）1名増員
4. 「企業研究者と学生の交流会」企画の結果報告
5. 参与の採用報告
6. 「触媒OnTheWeb」リニューアル
7. 国際交流活動報告
8. 団体会員入会の促進
9. 学会表彰規程見直しについて

1. 会長方針

- ・産・官・学にとって、より実質的な魅力があり、会員・社会に対して学会の活動が見えるよう、工夫して発信する。
- ・討論会を学生だけでなく、若手研究者への教育の場でもあることを再確認し、発表意欲・挑戦的意欲が高められるように工夫する。
- ・地方の教育現場への支援。

2. 平成29年度会長信任投票結果

1) 信任投票制の導入の背景

- ・従来は役員候補者選考委員会が選考し、本人合意と理事会決議を経て決定（理事選任は社員総会決議事項）。
- ・開かれた学会へという考え方は理事会メンバーが共有。
- ・平成28年度に信任投票制導入を決定。

選任手順：

- 役員候補者選考委員会が会長候補を推薦、理事会同意
- ⇒候補者が経歴、方針等をWEB上で開示
- ⇒学会員による信任投票
- ⇒理事会にて最終決定

2) 運用等

- ・会長任期、信任投票制とも触媒学会規程を改訂し、平成29年度から実施。

2. 平成29年度会長信任投票結果

3) 平成29年度会長信任投票の実施方法

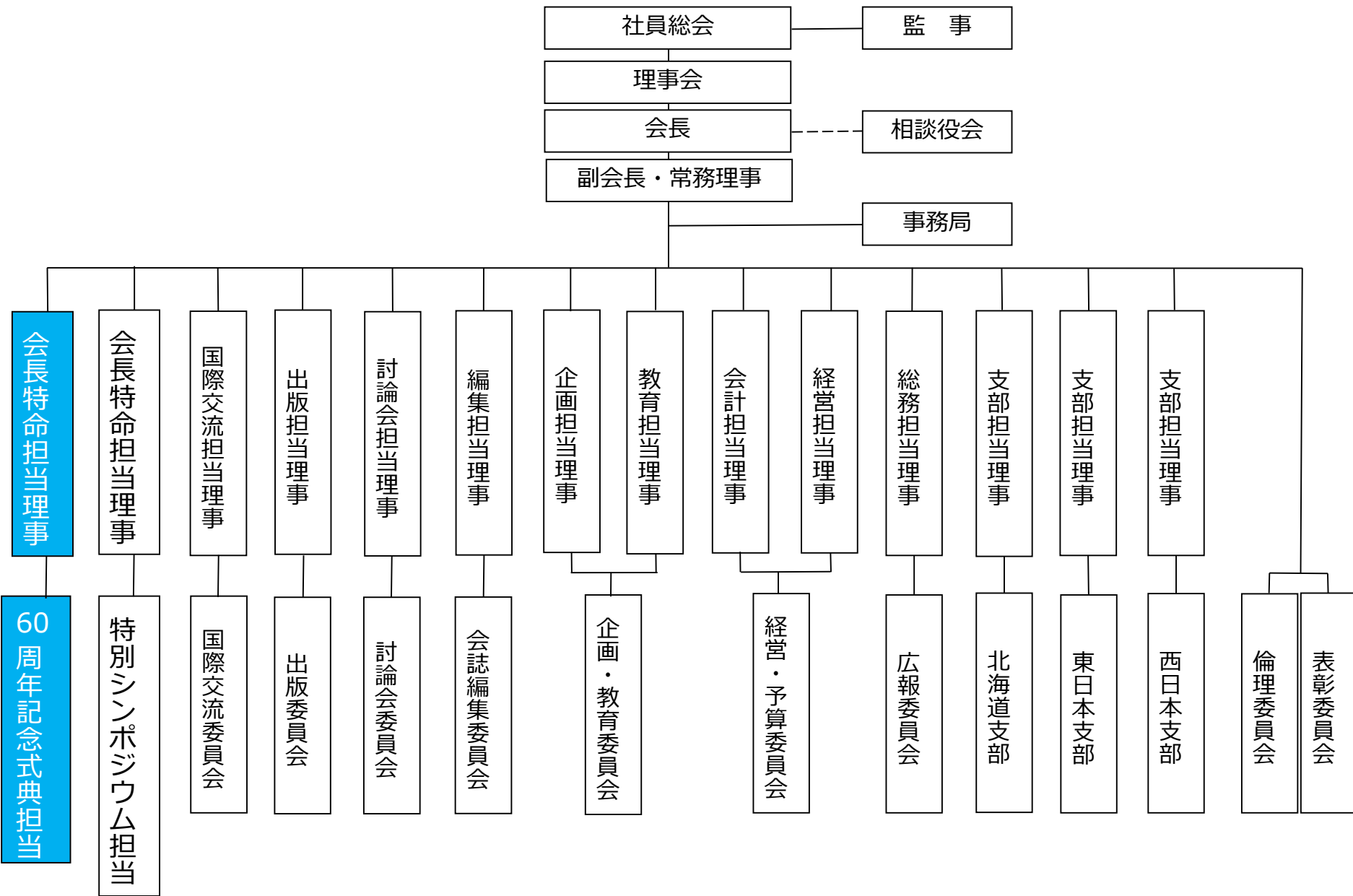
- ・役員候補者選考委員会および理事会において、平成29年度会長候補者として江口浩一氏（京都大学）を選出。
- ・同氏の「経歴と会長としての抱負」をWEBサイトに公示し信任投票を実施。

4) 平成29年度会長信任投票結果

- ・投票は原則WEB投票（希望により郵便での投票も可）
- ・投票期間：平成29年2月1日(水) から2月28日(火)
- ・有資格者：正会員：2174名（シニアおよびS会員を含む）
- ・投票結果：有効投票率：15.6%、信任率：99.4%

有効投票数の3分の2以上の信任が得られたので、江口浩一氏（京都大学）が平成29年度触媒学会会長最終候補者として信任。なお、同氏は5月開催予定の定時社員総会にて理事として選任後、引き続き開催される理事会にて平成29年度会長に選任予定。

3. 平成29年度理事会体制－会長特命担当理事 (60周年記念式典担当) 1名増員



4. 『企業研究者と学生の交流会』 企画と結果報告

『就活を控えた学生が、9月の時期に企業の一線で働く研究者と実際に交流することで、就職サイトや合同企業説明会では得られない生の情報を得て、自身のキャリアプランや学生時代の過ごし方、あるいは就活や社会に出る心構えを考えるきっかけとなる場にしていただくために企画したものの』

学会から会員へのサービスの一環として、地方大学の学生（開催地の非会員学生も参加可とした）にも企業と接する機会を提供したい（地方と大都市の就活格差を減らしたい）。

内容：

- ・ 第118回触媒討論会（岩手大学）会期中の
平成28年9月22日(木)15：00-17：00に開催した。
- ・ プログラム
15:05-15:50 企業からの合同情報提供
(旭化成、JXエネルギー、本田技研工業、三井化学)
16:10-17:00 各社のブースに分かれて学生との個別対応

5. 参与の採用報告

1) 参与の設置について昨年度議論背景

- ・学会事務局の仕事量が飽和状態。
- ・専門性が必要な突発案件、特殊案件への対処が難しい。
例：触媒学会固有の冊子編纂、特例行事、官公庁対応、等。
- ・現状はボランティアを「お願いしている」状態。

対応策

- ・理事会行動力の補完として**参与を設置できるようにした。**
- ・採用は不定期、期間限定、空席可。
- ・専門性を頼り、報酬を可とする。
- ・名誉職ではない。
- ・定款変更が必要なため、5月定時社員総会にて提案、決議。

2) 参与の採用結果の報告

- ・平成28年度参与として2名採用。
大竹正之氏（触媒年鑑の編纂）
出口 隆氏（事務局業務効率化のためのプログラム開発）



6. 「触媒OnTheWeb」 リニューアル

2017年4月触媒OnTheWebが新しくなります！



「触媒 (Catalysts and Catalysis)」は1959年(昭和34年)に創刊された触媒学会の会誌です。このサイトをつかって、どなたでも全記事の検索と結果(書誌情報)の表示ができ、正会員・学生会員の方は記事のダウンロードもできます。

59巻1号 (2017)

2017 Vol.59 No.1
いたるところに、触媒

PDF一括ダウンロード

CONTENTS

- 目次
59(1), 〈巻頭〉 (2017). PDF
- 表彰
- 「水分解および二酸化炭素還元到高活性を示す半導体光触媒系の構築」
工藤昭彦, 59(1), I (2017). PDF 全文HTML
- 「担体との相互作用を制御した焼成型高活性硫酸触媒の開発と実用化」
関浩幸・吉田正典・田河勝吾・香川智晴, 59(1), II (2017). PDF 全文HTML
- 「酸化物光触媒の材料設計におけるキャリア輸送の効率化と高機能化」
天野史郎, 59(1), III (2017). PDF 全文HTML
- 「酸化セリウムの酸・塩基および酸・還元機能を有した触媒反応の開発」
田村正純, 59(1), III (2017). PDF 全文HTML
- 「白金族元素を主成分とする金属間化合物触媒の創製と展開」
古川森也, 59(1), IV (2017). PDF 全文HTML
- 「SCR反応のためのFe/ゼオライト触媒の開発」
岩崎正典, 59(1), IV (2017). PDF 全文HTML
- 「水素製造用触媒の開発と実用化ならびに学会活動における貢献」
岡田治, 59(1), V (2017). PDF 全文HTML
- 「燃料電池用水素製造触媒の開発と実用化ならびに学会活動における貢献」

CLARIANT
クワリアント触媒株式会社

NIKISO Group
MicrotracBEL

書誌情報検索
検索

▼詳細検索

あなたの検索履歴

バックナンバー

- ▼59巻 (2017年)
- ▼58巻 (2016年)
- ▼57巻 (2015年)
- ▼56巻 (2014年)
- ▼55巻 (2013年)
- ▼54巻 (2012年)
- ▼53巻 (2011年)
- ▼52巻 (2010年)
- ▼51巻 (2009年)
- ▼50巻 (2008年)
- ▼さらに表示する

検索ワードランキング

(1233件のべ数: 4949)

1. 二酸化炭素 (150回)
2. 白金 (130回)
3. メタン (121回)
4. 水素製造 (97回)
5. 光触媒 (79回)
6. ゼオライト (68回)
7. CO2 (66回)

- ✓ 一括ダウンロード対応
- ✓ 便利な検索機能
- ✓ バックナンバーにも対応
- ✓ スマートフォン対応！



• ID、パスワード、URLはそのまま。

URL
<http://www.shokubai.org/jnl/>



7. 国際交流活動報告

(1) 触媒学会主催行事 実施報告

1) 16th ICC Pre-symposium

共催：触媒学会、北海道大学触媒科学研究所

会場：北海道大学触媒科学研究所

期間：2016年6月30日（木）～7月1日（金）

組織委員長：福岡 淳（北大触研）

参加者：126名（一般：83名、学生：43名）

2) International Symposium on Catalysis and Fine Chemicals 2016 (C&FC 2016)

共催：触媒学会

会場：Howard Civil Service International House, 台北市

期間：2016年11月11日（金）～14日（月）

参加者：約350名（日本人：約100名）



8. 国際交流活動報告

(2) 触媒学会主催行事予定

1) 30周年記念第16回日韓触媒シンポジウム

会場：札幌「かでの2・7」（北海道立道民活動センター）

組織委員長：村松淳司（東北大多元研）

期間：2017年5月15日（月）～17日（水）

2) 8th Japan-China Workshop on Environmental Catalysis and Eco-Materials

会場：つくば国際会議場、世話人代表：羽田政明（名工大）

期間：2017年12月4日（月）～6日（水）

3) 第16回日台触媒シンポジウム

会場：京都ガーデンパレス、世話人代表：田中庸裕（京大院工）

期間：2018年1月29日（月）～31日（水）

4) TOCAT8 (8th Tokyo Conference on Advanced Catalytic Science and Technology)

会場：パシフィコ横浜、組織委員長：堂免一成（東大院工）

期間：2018年8月5日(日)～10日(金)



8. 団体会員入会の促進

団体会員の退会，会社統合による団体会員数の減少に直面して：

団体会員入会時：初年度 6万円

次年度以降 12万円/口

とする。

9. 学会表彰規程見直しについて

- 1) 昨年度、奨励賞を「学術」と「技術」に分け、技術的な業績も応募しやすくなる改訂を行った。
- 2) しかしながら以下の問題点が指摘され、理事会からの要請により、「表彰規程見直し作業部会」にて表彰規程の見直しを行った。

<検討理由>

- ①学会賞（技術部門）受賞に至らなかった応募者を称えることはできないか？
- ②学会賞（技術部門）には至らないが、優れた業績を表彰する制度は設けられないか？
- ③応募者が多い場合、優秀な奨励賞候補者を称えることはできないか？
- ④賞の名前を再検討してはどうか？



9. 学会表彰規程見直しについて

平成29年3月20日開催の理事会にて議論の結果、下記の案が承認された。

- 学会賞（学術部門）：2名（現行通り）
- 学会賞（技術部門）：2件（現行通り）
- 技術進歩賞：
 - ・ 4件以内
 - ・ 年齢制限なし
 - ・ グループでも個人でもOK
 - ・ 商業化を問わない
- 奨励賞：
 - ・ 4名以内
 - ・ 40歳未満
 - ・ 個人
- 功績賞：若干名（現行通り）